

高大連携プログラムの実施



共立女子大学・共立女子短期大学

KYORITSU WOMEN'S UNIVERSITY / KYORITSU WOMEN'S JUNIOR COLLEGE

大学・短期大学
ホームページ



この事例のポイント

- ・ 高校生が大学教育に触れる機会の提供
- ・ トークライブ、フィールドワーク、LAとして大学生が参加など多様なアプローチによる連携プログラムの実施
- ・ 出張授業や説明会にとどまらず、実際に大学の科目を履修する機会の提供

この取組を行った背景や目的

高校生が大学・短期大学の教育に触れる機会を提供し、教育内容への理解を深め、大学・短期大学が持つ学問領域への興味・関心を喚起することや高等学校との連携・協力を通じて、本学の教育活動や入学者選抜等の改善に繋げることを目的としています。

実施した内容① 高等学校「フィールドワーク」の実施

対象：高校1年生

方法：連携校の高等学校の生徒を対象とし、大学・短期大学全体の説明、体験授業、学生生活トークライブ、キャンパスツアーが行われました（2024年11月実施）。

内容：当日は4名が参加し、体験授業や在学生とのトークライブに参加した生徒からは「大学が身近に感じられた」、「リーダーシップの授業が印象に残った」などの感想がありました。



実施した内容② 大学生がLAとして高等学校の探求活動を支援

対象：高校1年生

方法：大学生3名がLAとして高等学校を訪問し、高校1年生が行っている探求活動の発表内容や発表方法に関してアドバイスを行いました（2025年2月実施）。

内容：アドバイスを受けた高校生からは「新しい視点でのアドバイスを受け、探求発表本番までに改善していきたい」等の前向きな意見があがりました。大学生（LA）からも「リーダーシップの授業で学んだ内容を、楽しみながら発揮することができた」等の感想があがり、高校生と大学生の双方にとって学びある時間になりました。



実施した内容③ プレカレッジとして児童学科の初年次科目に参加

対象：高校3年生 原則として大学への進学を検討している生徒

方法：2024年前期にプレカレッジとして、高校3年生が児童学科1年生と同じ授業（児童学基礎演習）を受講しました（受講料は無料）。同じ試験を受け、成績評価を受け、履修した単位は、原則として大学入学後に単位認定されます。

*児童学基礎演習は初年次教育科目としての性格上、単位認定は行わず、入学後に再度履修してもらいます。

内容：4年間を通して学ぶ児童学の基礎を理解する授業（児童学基礎演習）に半期（14回）参加しました。幼稚園、保育所、小学校の施設見学、テーマ別の発表、討論、グループワークなどの演習を大学生1年生と共に行いました。



実践するためのヒント

○成功や継続するためのポイントや要因

- ・ **連携校協定の締結**：高大連携プログラムを実施、活性化を図るため高等学校との間で協定の締結を行っています。
- ・ **協力体制の強化**：高等学校と大学間で定期的に会議を行い、プログラムの進捗や課題を共有しています。
- ・ **実践的なプログラムの導入**：高校生が大学で実際に講義や実習に参加できる、高校生が大学生との交流を通じて学ぶ機会をつくるといったプログラムを用意しています。

○実施体制について

- ・ 大学・短期大学の中期目標に高大連携プログラムの促進を位置づけ、大学企画課が中心となり組織的に対応しています。

○今後の取り組みの方向性

- ・ 高等学校とのさらなる連携協定の促進
- ・ 卒業生による座談会、生徒のニーズに合わせた出張講義など、プログラムのさらなる充実
- ・ 保護者を含めた情報提供の機会の拡充